

**■ 家畜伝染病などへの対応強化**  
**高病原性鳥インフルエンザや赤潮被害など様々なリスクへの対応力を強化します。**  
 (政策展開の方向性)  
 高病原性鳥インフルエンザの発生時の迅速な防疫措置や農場への侵入防止などの対策を強化します。また、赤潮の発生メカニズムの解明や被害軽減、ロードマップに基づく生産の回復に着実に取り組みます。ヒグマやエゾシカ、アザラシなどによる野生鳥獣被害対策に着実に取り組みます。

区分	主な取組	備考 (施策Code)
自然環境の保全及び野生動物等の適正な管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エゾシカ対策について、R6.1からの3年間で「緊急対策期間」に設定し、令和6年度から、狩猟期において個体数の削減効果の大きいメスの捕獲を促進するための経費支援や大量捕獲のための冬期間の集中捕獲事業を実施</li> <li>○「北海道ヒグマ管理計画（第2期）」を期中改定し、あつれきの低減に向けた取組を強化【R6.12】</li> <li>○道内3地域を対象にゾーニング計画の策定を支援するモデル事業を実施し、その事例を参照した「北海道ゾーニング管理ガイドライン」を策定し（R7.3）、道内市町村へのゾーニング管理導入の促進が図られた。</li> <li>○春期管理捕獲に取り組む市町村への財政支援を行い、人里周辺に生息するヒグマの警戒心の植え付けや低密度化に向けた取組を実施【捕獲頭数、R6：14頭、R7：22頭】</li> <li>○熟練した狩猟者の不在等の理由で春期管理捕獲を実施していない市町村等のヒグマ捕獲従事者を、春期管理捕獲の実施市町村における実際の捕獲活動に研修生として参加させることで、実践的な知識や経験を積むことができる研修事業を道内3箇所で行う【R7.3】</li> <li>○ヒグマ捕獲に係る知識の普及に向け、ヒグマ捕獲経験の少ない捕獲従事者を対象に、道内5カ所（旭川市、函館市、札幌市、釧路市、北見市）で講習会を開催、280名が参加【R7.2～3】</li> <li>○北海道ヒグマ緊急時等専門人材派遣事業により、解決困難な事案に対し専門家を派遣し問題個体の捕獲や対応策の助言等を実施</li> <li>○ゴマフアザラシの最新の知見等の情報共有を図るためワークショップを開催【R7.3.6 参加者：52名】、管理計画の推進のため「北海道アザラシ管理検討会」を開催【R7.3.6 参加者：28名】</li> <li>○認証取得を希望する施設への専門家の派遣・助言や、認証検討会の開催によって認証施設を増加させるとともに、エゾシカ肉の高品質化に向けた調査・検証と、道認証エゾシカ肉の流通拡大を図るためのマーケティングを実施</li> </ul>	0308
農業生産の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家畜伝染病の発生予防及びまん延防止対策を推進するため、道内の家畜飼養農場に立入検査を行い、飼養衛生管理基準の遵守状況の確認・指導を実施</li> <li>○野生鳥獣による農業被害防止のため、市町村が作成する被害防止計画に基づき、地域協議会等が主体となって取り組む捕獲や追い払い、農用地への侵入防止柵の整備などを支援</li> <li>◇高病原性鳥インフルエンザ発生時には、対策本部において防疫計画を決定し、速やかに防疫措置を開始</li> </ul>	0602

※主な取組については、令和7年度基本評価・事務事業評価調書(「○～」)、道ホームページ等(「◇～」)より引用・作成

水産業の振興	<p>○漁業者ハンター育成のため、猟銃取得までにかかる初期費用を支援</p> <p>○国費（有害生物漁業被害防止総合対策・鳥獣被害防止総合対策）を活用した駆除や被害を軽減する強化網導入等により、漁業被害防止対策を推進</p> <p>○振興局海獣被害防止対策連絡会議（設置8振興局）等により、情報を共有化</p> <p>○渡島総合振興局管内の河川で外来魚生息調査を実施</p> <p>◇令和3年9月に本道の太平洋沿岸で発生した赤潮について、赤潮発生の予察手法の開発などの調査・研究や、環境・生態系保全緊急対策事業を活用した漁場環境の回復などの対策を進めるとともに、「北海道太平洋海域における有害赤潮の発生予察および監視に関する行動計画」に基づき、赤潮原因プランクトン等のモニタリングを実施</p>	0701
--------	---	------